



【資料編】

さいたま市公民館ビジョン

令和 3 年 3 月

さいたま市教育委員会

目次

- 公民館ビジョン策定のプロセス p. 1
- 社会教育と公民館 p. 4

資料編

■ 公民館ビジョン策定のプロセス

公民館ビジョンの策定にあたっては、一人でも多くの声を反映したものとするため、公民館職員が抱く公民館への思いをまとめたヒアリングシートや、日頃、公民館を利用されている市民の方との意見交換会において伺った意見をもとに、社会教育の専門知識を有する社会教育主事を中心とした社会教育主事部会（以下、「部会」という。）で議論を進めてきました。

部会では、これまでの公民館を改めて見つめ、そしてこれからの公民館を見据えていくため、今一度、生涯学習社会の中での社会教育のあり方と、社会教育施設としての公民館のあり方について整理しました。

また、部会の議論を深めるために、本市出身の映画監督で国の地域活性化の事業にも多数携わるなど多方面で活躍されている林弘樹氏に、アドバイザーとして公民連携の視点から指導助言をいただきました。

全公民館職員を対象にしたヒアリングシートから見たこと



▲ヒアリングシート（写真1）

全ての公民館職員から、各公民館の現状や公民館職員の役割、望ましい公民館像や生涯学習のあり方についての意見を収集することが重要と考え、全公民館職員約280人を対象としたヒアリングシート（写真1）による意見聴取を実施しました。

部会では、全員が全てのヒアリングシートに目を通し、公民館の現状や諸課題を整理しながら、今後の公民館のあり方について、協議を行いました。

また、部会を市内各区の公民館で実施することで、地域の実情や各公民館の特色ある施設、運営方法などを学ぶ機会にもなりました。（次頁・写真2）

部会において整理した内容や意見などについては、後日、全公民館職員にフィードバックしました。さらに、公民館利用者をはじめとする市民の方々から、広く意見を伺うために、市民と公民館職員が意見交換会を行いました。（写真3）

社会教育主事部会で話し合って見えたこと

地域特性とつながりがない

地域に出ていけない

行政サービスの限界を感じる

地域の為の施設となっているか

利用していない人が多いのでは

地域づくりやコミュニティの拠点なのか

▲社会教育主事部会の様子（写真2）

公民館利用者皆さんからの意見

インターネット受付になり、
どこの公民館でも利用できるよう
なり便利になった

地域の人が集まらない

地域を担っていく人材を育成する場
になって欲しい

地域のつながりの場としての公民館を前面に
出して欲しい

地域参加のきっかけにしたい

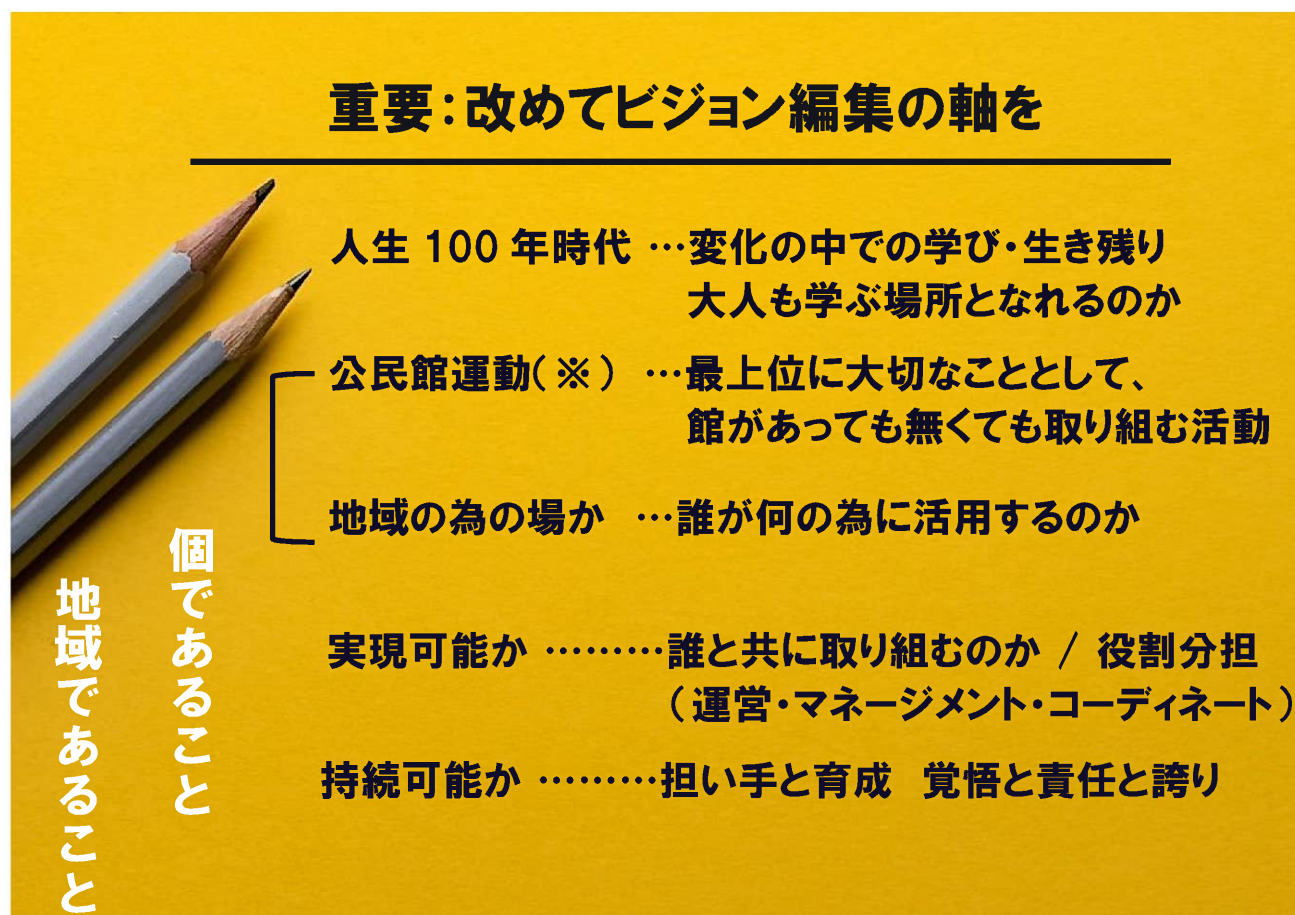
特定の人ばかり利用している

世代間のつながりが必要である

講座などに参加して楽しんでいる

▲市民と公民館職員との意見交換会の様子（写真3）

部会では、公民館ビジョンの検討過程から大切にすべき視点として、「誰がやるのか、誰とやるのか」「どう繋ぐのか、学んでどうするのか」を軸として公民館ビジョンの検討を進めました。



重要：改めてビジョン編集の軸を

- 人生 100 年時代 …変化の中での学び・生き残り
大人も学ぶ場所となれるのか
- 公民館運動(※) …最上位に大切なこととして、
館があっても無くても取り組む活動
- 地域の為の場か …誰が何の為に活用するのか
- 実現可能か ……誰と共に取り組むのか / 役割分担
(運営・マネージメント・コーディネート)
- 持続可能か ……担い手と育成 覚悟と責任と誇り

地域であること

個であること

※公民館運動

戦後の混乱した日本を再生する原動力として、地域住民が集って、教え合ったり学び合ったりして、お互いの教養文化を高めるための民主的な教育機関である公民館を設置しようと、全国各地で、活動的な青年等によって広まった運動

■ 社会教育と公民館

1 生涯学習社会の中の社会教育について

人は、その生涯にわたって、家庭や学校だけでなく、社会の中で様々な学習活動を行います。その学習は、机に向かって勉強して習得するものだけではなく、スポーツやレクリエーション、趣味やボランティア活動など、あらゆる場面で得られる知識や技術などを習得することを指し、自分の自発的な意思に基づいて、自分に適した手段・方法を自分で選んで、生涯を通じて行うものです。

これを「生涯学習」と呼び、「生涯学習社会」とは、一人ひとりが、あらゆる機会に、あらゆる場所において生涯学習をすることができ、その成果を適切に生かすことのできる社会です。

「社会教育」とは、家庭で行われる「家庭教育」や、学校で行われる「学校教育」を除く教育活動のことで、国や地方自治体をはじめ民間企業やNPOなどが、生涯学習社会を実現するため、個人の要望、社会の要請に応えるため、あらゆる方法で学習機会を提供し、一人ひとりの学びを支援することです。

社会教育における学習は生涯学習の一部であり、例えば、公民館で実施している様々な講座・教室を、市民が自分で選んで参加することは、生涯学習であり、社会教育における学習を行っていることとなります。

2 社会教育施設としての公民館について

社会教育に関連した施設としては、公民館、図書館、博物館、美術館などがあります。

公民館は設立当初、地域住民のために、住民が集まり、様々な学びや交流ができる拠点として存在し、さいたま市内の60館もの公民館が、それぞれ今日まで地域住民と共からに歩んできた歴史があります。

地域住民にとって身近な施設である公民館は、学習活動を行う仲間が集い、サークルとして活動することができる施設であるとともに、地域の歴史を扱った講座や健康を維持・増進するための体操教室、育児をしている保護者向けの講座や、異なる年齢・学年の子ども同士が交流する体験活動など、あらゆる世代に向けた多様な講座を企画実施しており、地域住民の学びをサポートしています。

公民館は地域住民がいつでも気軽に立ち寄り、学ぶことができる「地域の学びの拠点」と呼べる場所なのです。